

※UD化評価地図とこれまでのワークショップで出された意見を元に、まち全体のUD化に向けて優先すべき改善場所、取り組み、実施主体などを整理し、UDまちづくり計画を作ります。

■ワークショップの意見を分類しよう

ワークショップの参加者の意見を参考にしながら、短期から長期、ソフト面からハード面にいたるUDまちづくり計画をつくるためのワークショップを行います。

これまでに出示された意見の中には、単なる感想や個人的な意見で共有が困難な内容のものもあります。ワークショップで出示された意見を今後の指針とするには、これらを整理することが必要となります。そこで、一つ一つの意見を短冊にし、自由に動かしたりまとめたり関連付けたりしながら、より広い視点で整理を行います。



①第3回ワークショップのワーク2「モデル地域の未来を考えよう」で出た参加者意見の分類を行い、内容ごとの短冊を整理します。内容（長所や短所、ジャンル、班別等）によって短冊の色を分ける等、意見を整理しやすいように工夫すると良いでしょう。

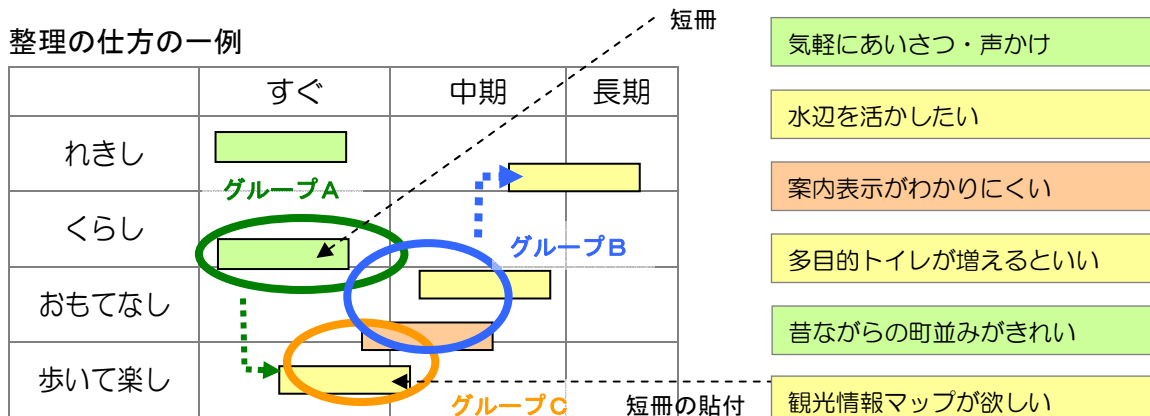
②次に、模造紙に枠を作り短冊を並べて整理していきます。

ワークショップで出たアイデアや今後の取り組みの展開を考えながら、どのようなカテゴリーで整理すべきかよく検討しましょう。例えば、ワークショップのテーマ等から縦軸を設定し分類を行っても良いでしょう。必要な枠は随時追加・修正を加えていきます。

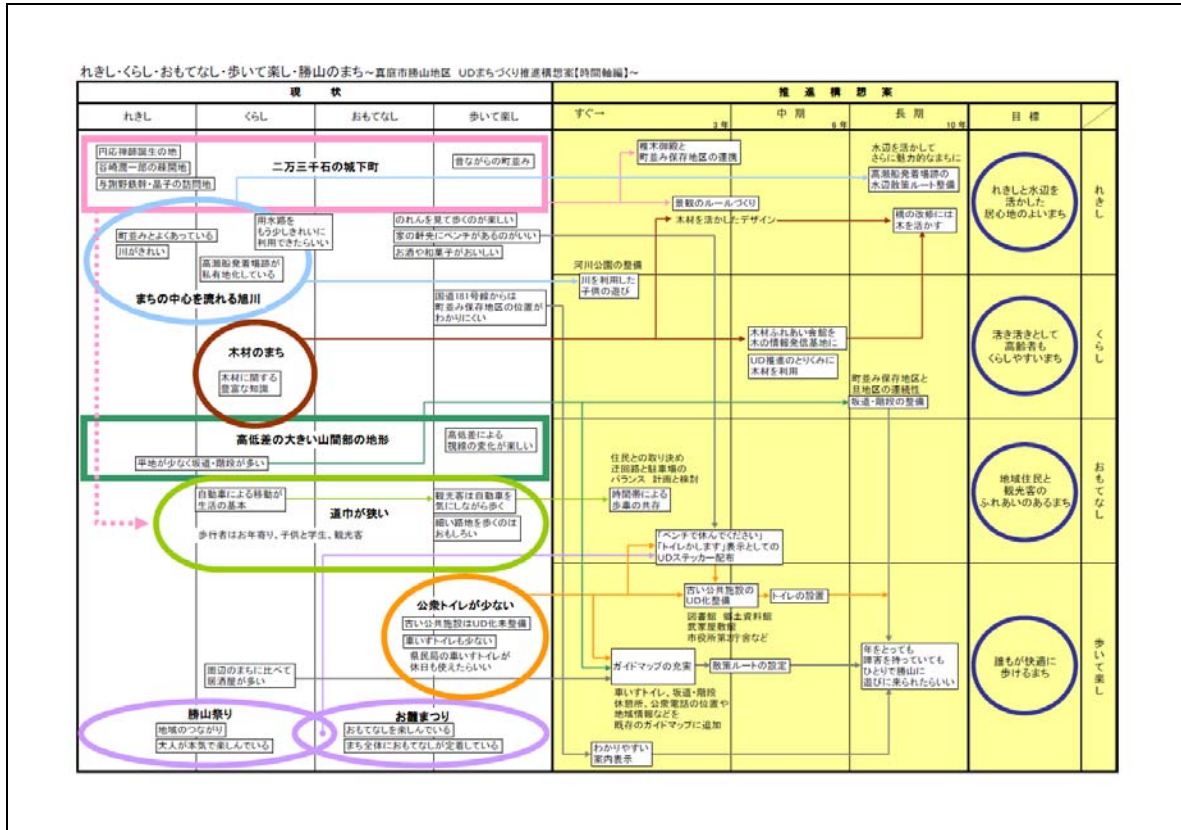
また、横軸を「すぐにできること」「中期（2～6年）かかること」「長期（7年以上）かかること」「将来の目標」といった時系列の枠とします。

大まかに短冊の仕分けを行い、表に貼付できたら、全員で各短冊の内容や配置する位置を確認していきます。短冊の配置ができたら内容ごとにグループをまとめます。さらに意見やカテゴリー間の関連性を検討し、矢印で図示するなどしてまとめます。

整理の仕方の一例



真庭市勝山での計画案の一例



解説

この事例はワークショップから洗い出されたモデル地域の要素を表にまとめ、ソフト面・ハード面、その地域の特色・要素をつなぎ、複合的な計画をつくったものです。UDまちづくりを実践する上でのガイドとなるよう、「いつ」「どこで」「誰が」取り組みを進めていくべきかがわかりやすいように、時系列での整理や、地図で場所を示した整理等を行いました。上の図では、左枠に現状の把握と評価、右枠をUDまちづくりのための構想案とし、一番右の枠はまちづくりの目標やキャッチフレーズとしました。

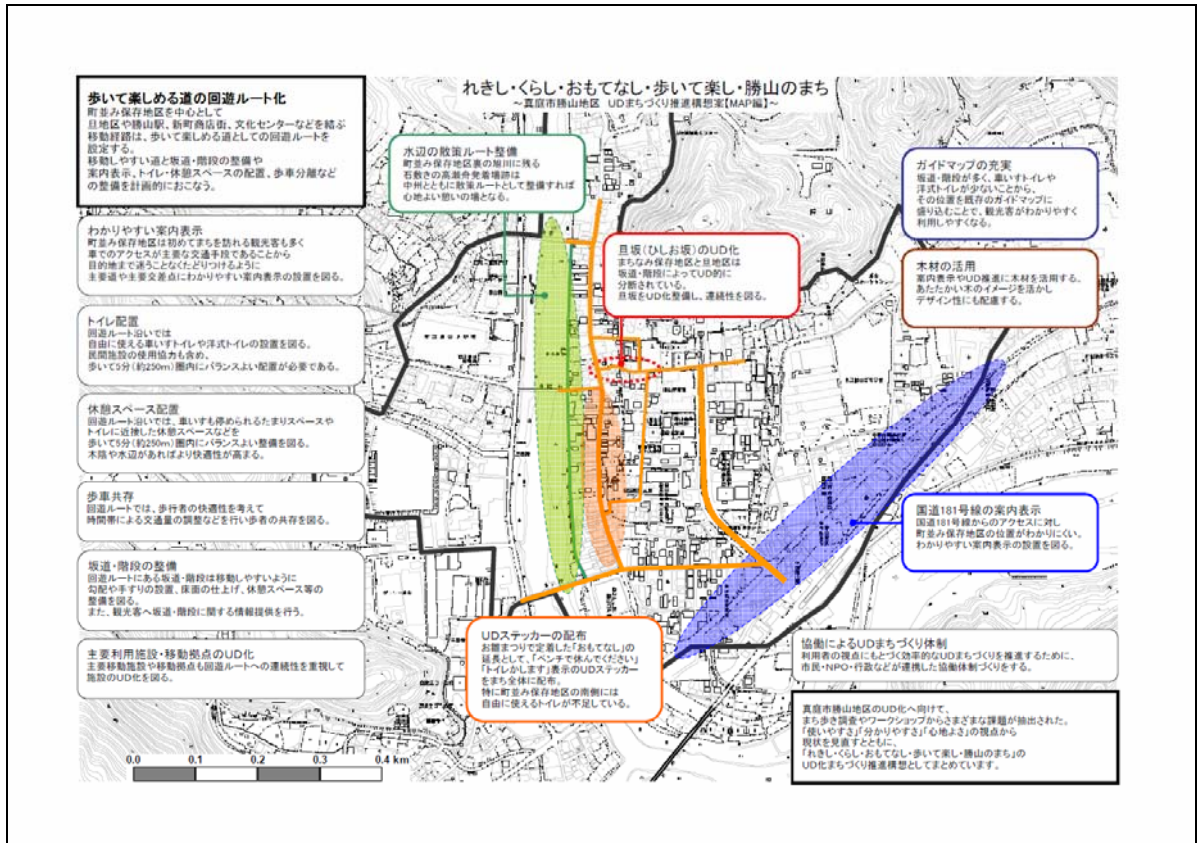
例えば、勝山地区には山間部の地形であるため坂や階段が多いこと、公衆トイレが少ない等の課題がある一方、勝山祭りやお雛祭り等での地域のつながりやまち全体でのおもてなしが定着しているという現状があります。そこで、本計画案では早期段階に、坂道や階段やトイレ等まちの情報をまとめた「ガイドマップの充実」をあげました。また並行して地域住民によるおもてなしを活かした「トイレ貸します」「ベンチで休んでください」等の表示ステッカーの配布を提案し、地域住民と観光客がふれあえるまちとなることを目標として掲げました。

6. UDまちづくり計画をつくる(第5回ワークショップ)

※前項で整理した計画をもとに具体的に改善すべき箇所や整備すべき移動経路、案内表示等を図示し、まち全体のUD化に向けた計画図を作成します。

■UDまちづくり計画を作成しよう

真庭市勝山での計画案の一例



解説

上図では、UDまちづくり計画を今後の指針とするためには、具体的な場所を踏まえて現状や課題を整理しました。

真庭市勝山地区のUD化に向けて、ワークショップやまち歩き調査から明らかになった様々な課題として「歩いて楽しめる道の回遊ルート化」「わかりやすい案内表示」「トイレ配置」「休憩スペース配置」「歩車共存」「坂道・階段の整備」「水辺の散策ルート整備」「主要利用施設・移動拠点のUD化」を挙げました。今後のUDまちづくりの取り組みとしてソフト面では、町並み保存地区を中心としたUDステッカーの配布、階段や車いすトイレ情報等を掲載したガイドマップの充実を挙げました。また、木材を活かした温かみのあるデザインの配慮、町並み保存地区への主要なアクセスルートとなる国道181号線での案内表示の設置、水辺の散策ルートの整備といったハード面での整備についても提案をまとめています。